



始まりは痴漢から

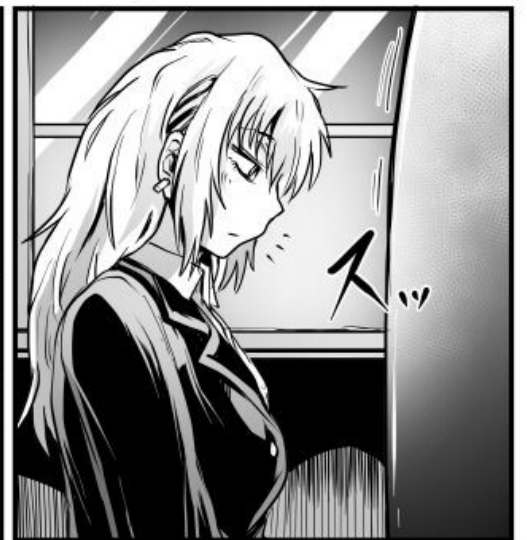
くじら三匹

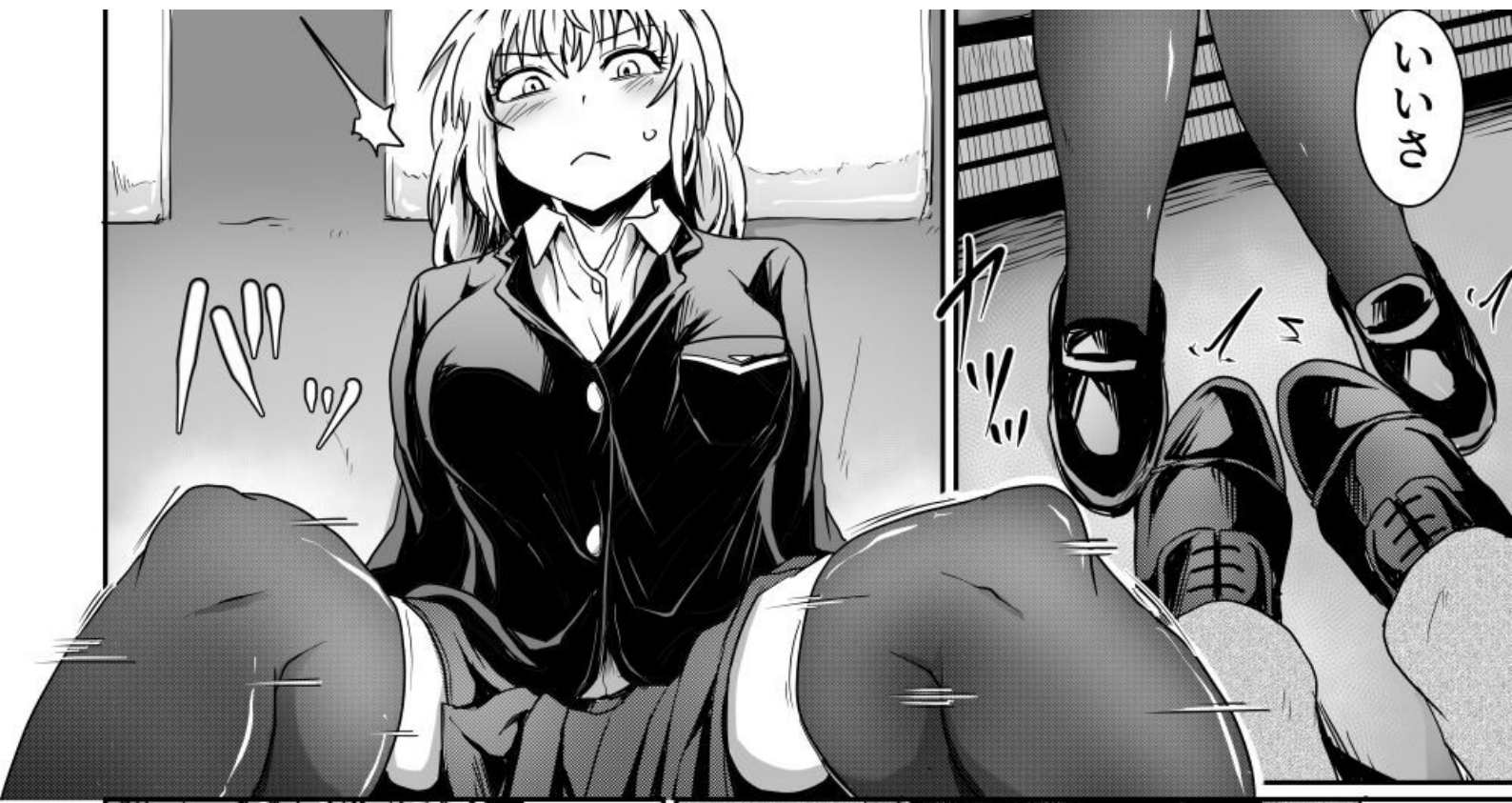
成人向け



始まりは痴漢から







ふふふ



それ以上触ると
声：上げますよ？



きれいな
肌だね



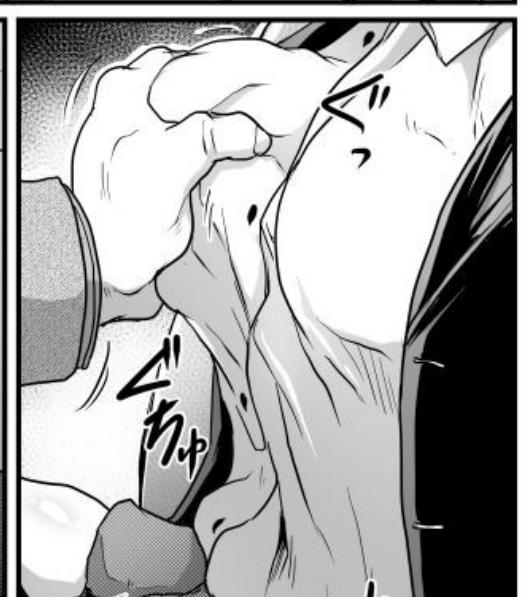
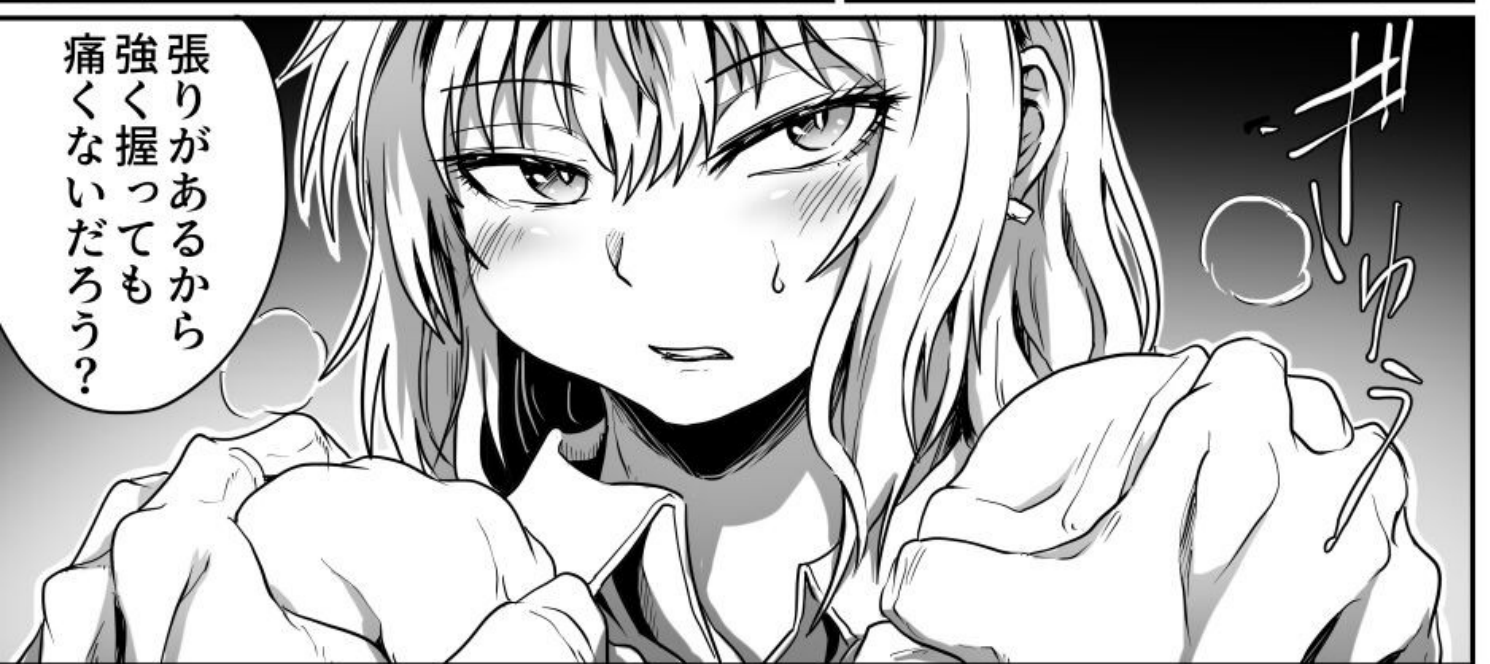
今朝は人がたくさん
いたから、やめて
あげたんですよ

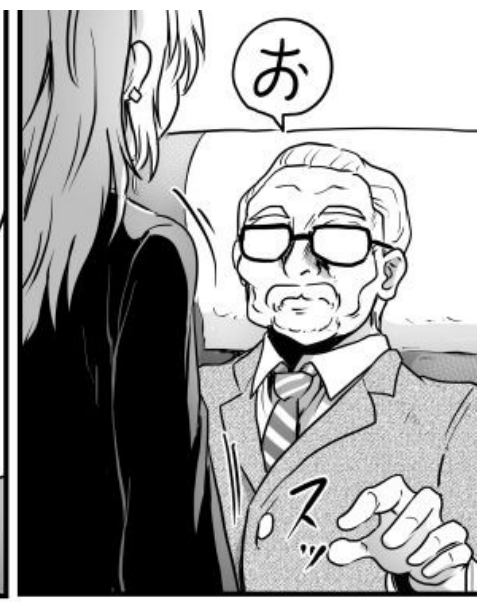
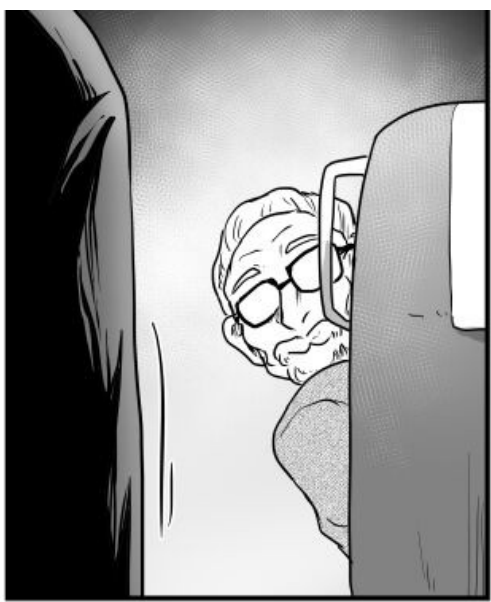
もみ
もみ

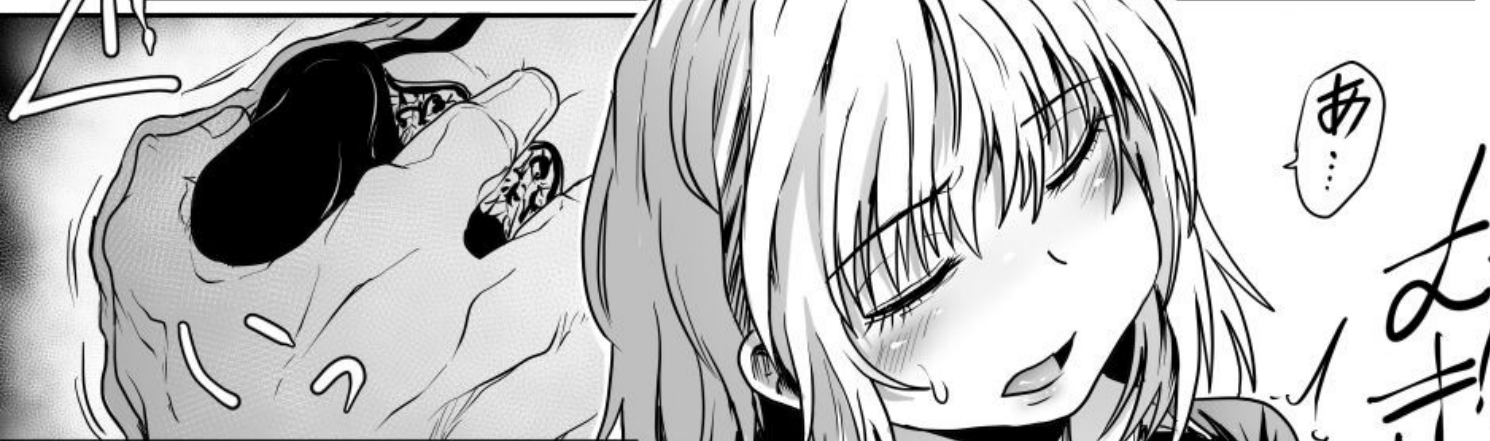
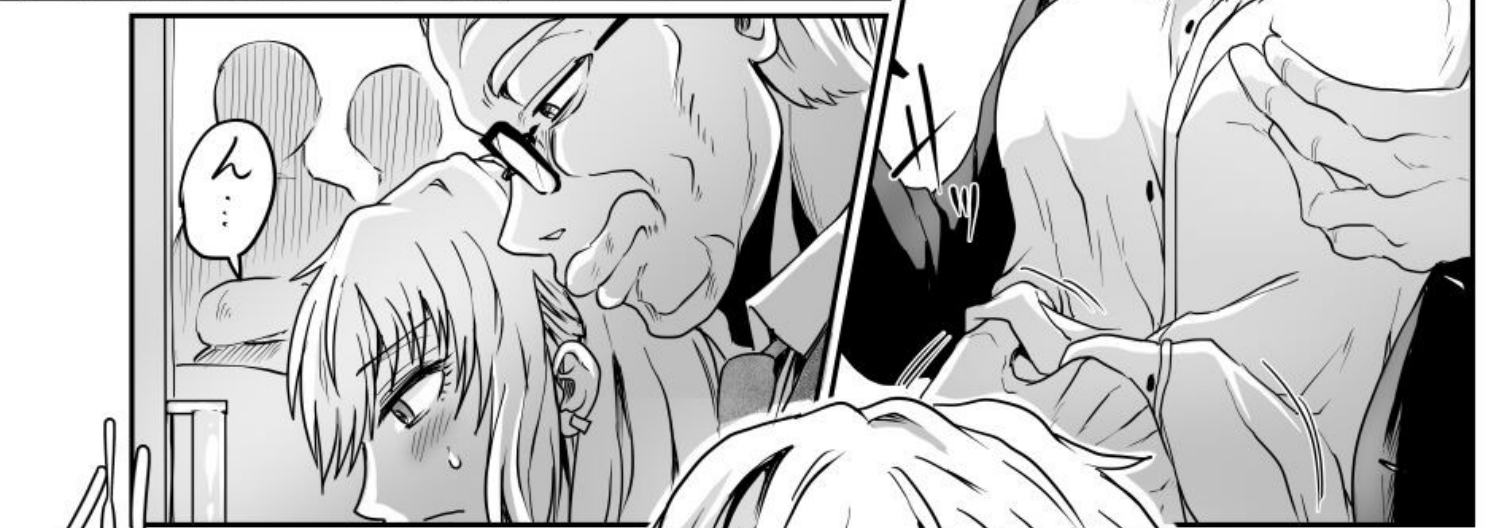


ここで
上げるなら
今朝上げてるさ

おにゅ









はは、
確かにそうだね

親みたいなこと
訊かないで
下さいよ



どっちにしても
大変な生活で
疲れも溜まるだろう

君のことが
知りたくてね
帰る時間が遅いのは
部活か予備校かい？



学校の勉強は
どうだい？

ここまで執拗に手を
出してくるなんて：
性関係がオープンに
なってるっていう話は
本当だったんですか

ん：

世の中が便利に
なったら、みんな
やることはそういう
ことになるんだよ
きつと

いそ

でも、君が手を
出されていけない
のは意外だない
の？ 彼氏は？

：いませんよ
女子高ですから…

じゃあ僕が
名乗り出ても
いいかな？

あ…

そ、そんな軽々しく
言っつてこないで
下さい…

おっぱいを
こんな
弄られてるのに？

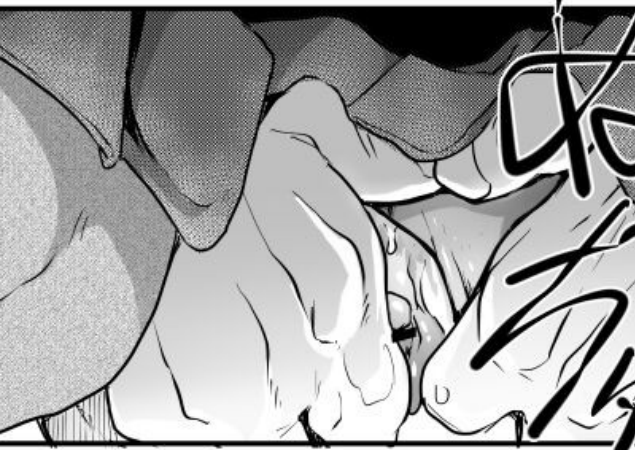
ますます
君のことが
好きになっ
てきたよ

明日も
同じ時間
に会おうね

フシ

もみ

もみ





こんな所で 出さないで下をこよ...





出そうだ

ちよっと
やめてよ!



気持ちいいよ



しゅっ
しゅっ



できるわけ
ないでしょ

このままじゃ
制服が
汚れちゃうよ



受け止めて
くれるかい



ま

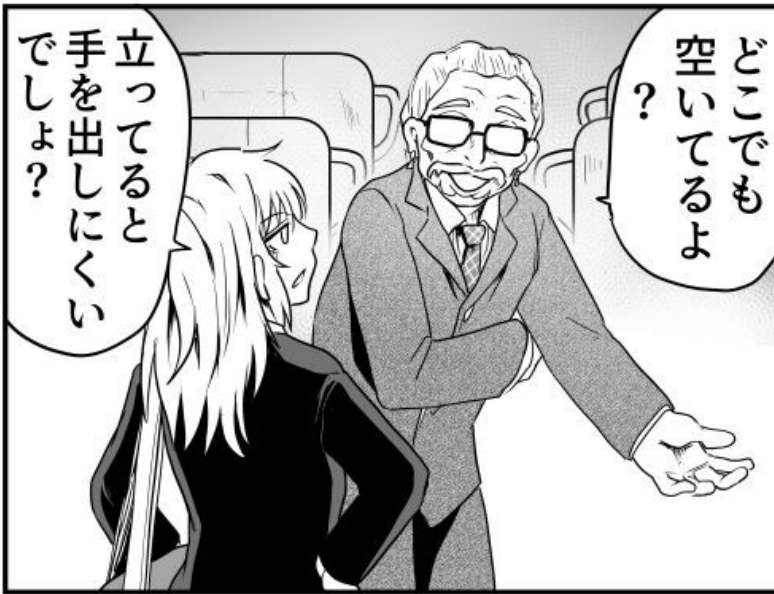


...



時間が
ないよ
どうする?





立っていると
手を出しにくい
でしょ？

どこでも
空いてるよ
？



席に
座らない
のかい？



あまり
他のことを
考えるのは…

…
本当にテストが
近いんですよ



OK、手は
出さないよ

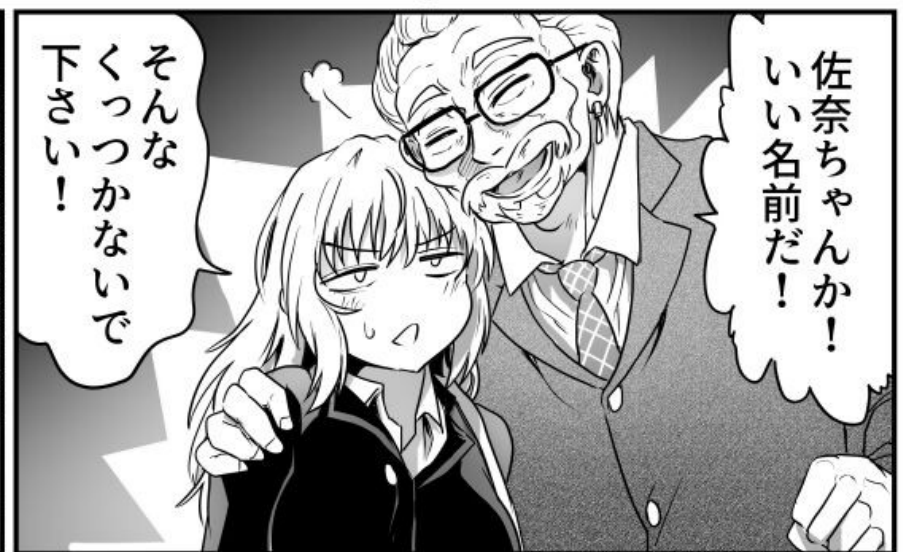
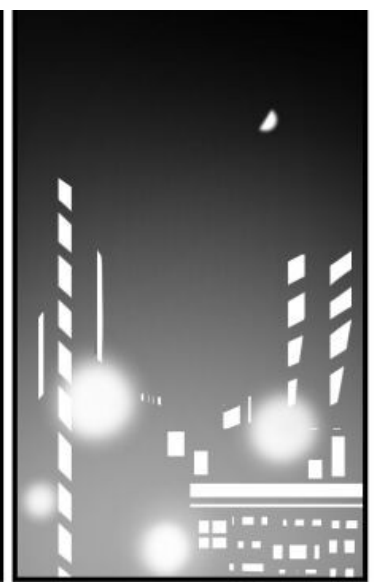
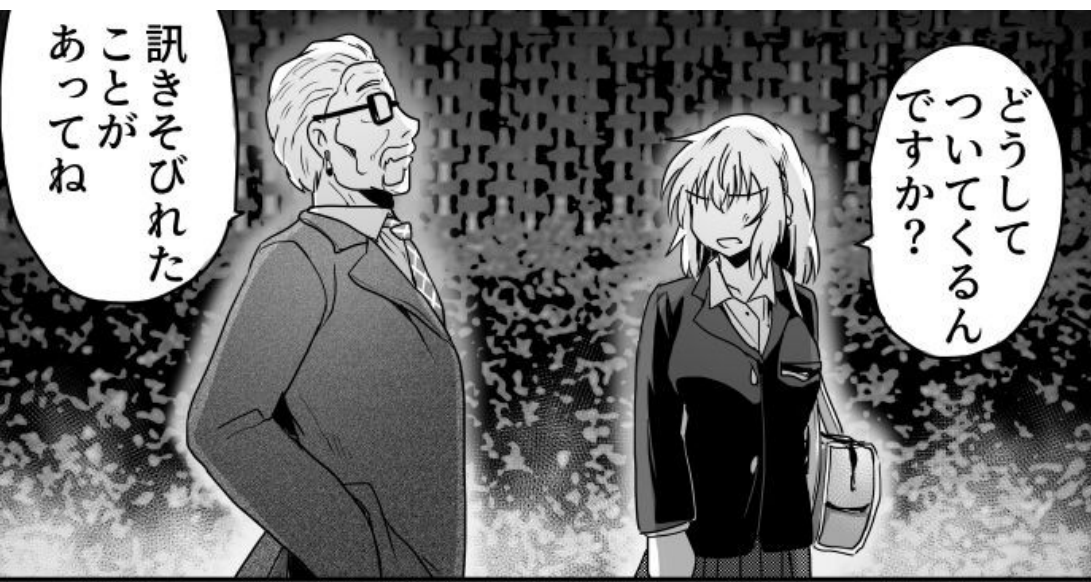
愛想が
尽きたかな？

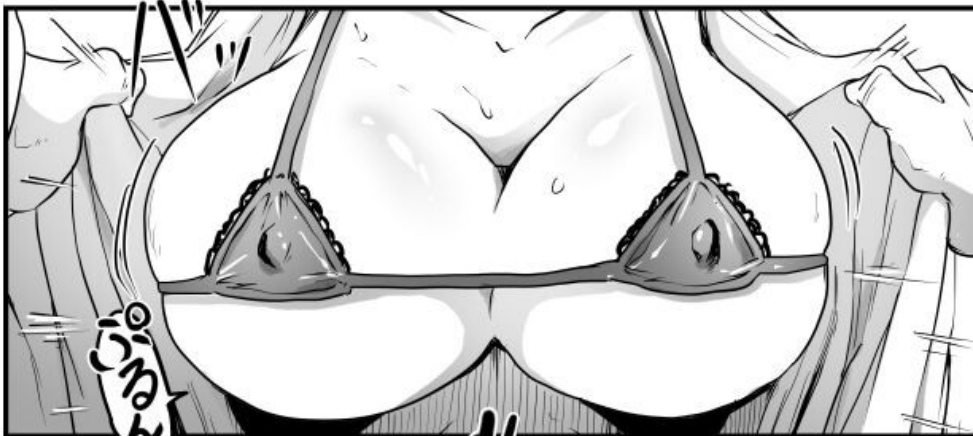
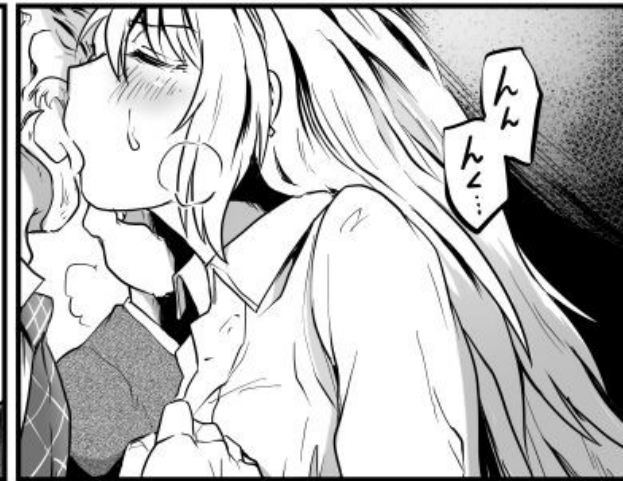
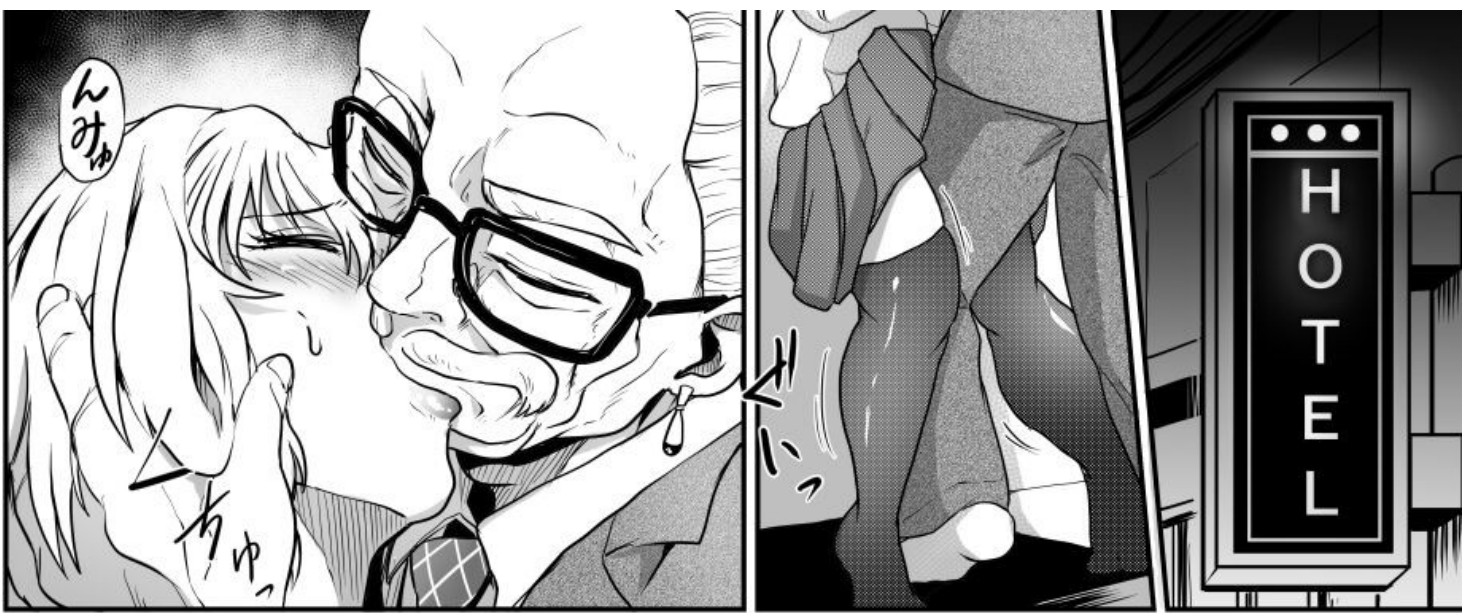


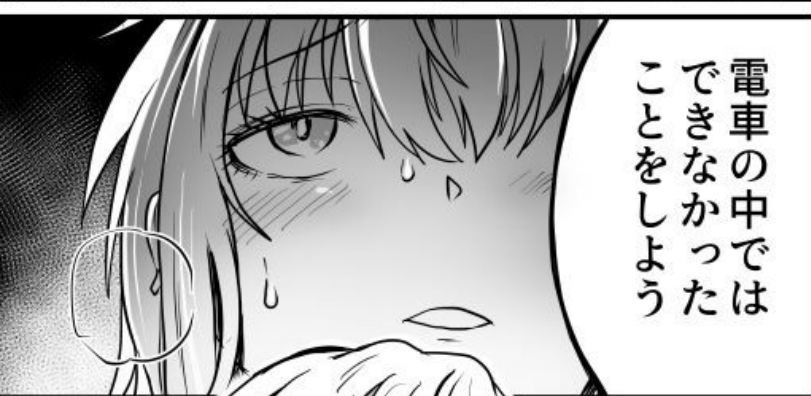
勉強の邪魔
かな？

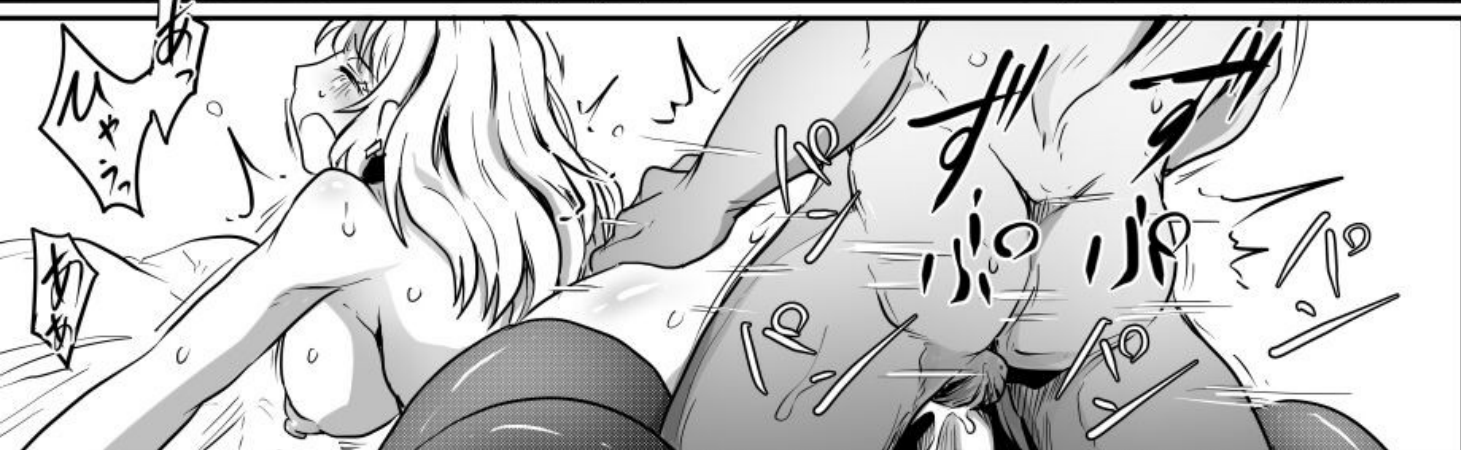
わかり
ません

そう…















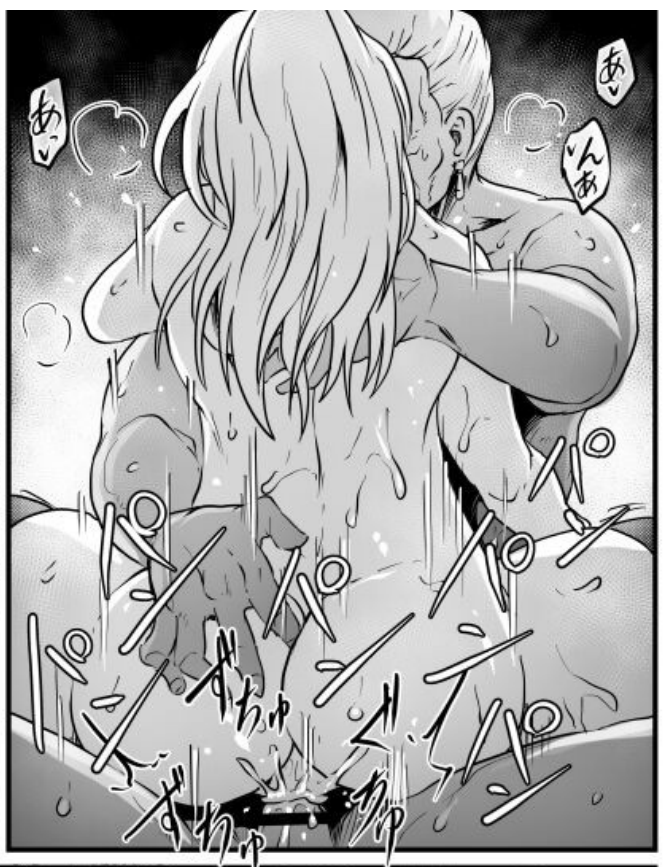
高浜さん…
も…頭が…

セックスしてること
しか考えられなく
なってるだろ？

それで
いいんだよ
佐奈ちゃん

は…

は…



どうして…勉強
忘れちゃう…

思いつめるのは
良くないんだよ
心が荒んで
チャレンジ
できなくなる

メリハリを
つけないと
学んだことは
活かせないんだ

今は…気持ちよくて
リラックス
できているだろう？



佐奈ちゃんに
協力できて
嬉しいよ



はい…とても
良くなりました…





こんにちは
高浜さん



ええ、
おかげさまで
うまく
解けました



佐奈ちゃん
連絡
ありがとうね
テストは
無事終わった
かい？



はい
今日とは
言わず…



じゃあ
今日は時間が
空いてるかな？

しばらく学校は
休みなので、
テスト期間の分…
付き合えますよ





待合室で蕩ける



雪で電車が
遅れている

何時間後に
来るかは
わからない

待合室には
少女が一人

こんな
辺鄙な駅で

こんな雪の日に
居合わせるのは
彼女くらいだ

彼女は
慣れたように
本をとる

待合室に
炊かれた
ストーブが
彼女のお供だ

せめて挨拶
くらいするのが
礼儀だろう







あ…



まずは
馴染ませるよう
に腰を回す

ゆっくりと
準備を
整えてもら
うためだ



徐々に
溢れてきた
愛液で

男根と
肉壁とが
絡み合っていく

体の強張りも
ほぐれていき

息が少しずつ
安定していく

ここで突く

あ!!

ぐちゅ
ゆほ
じゅほ
どっ



ここまででは
ウォーミング
アップだ





こうなれば
中々イかない

彼女が
顔を下げたら
快感が停滞
してきた合図だ



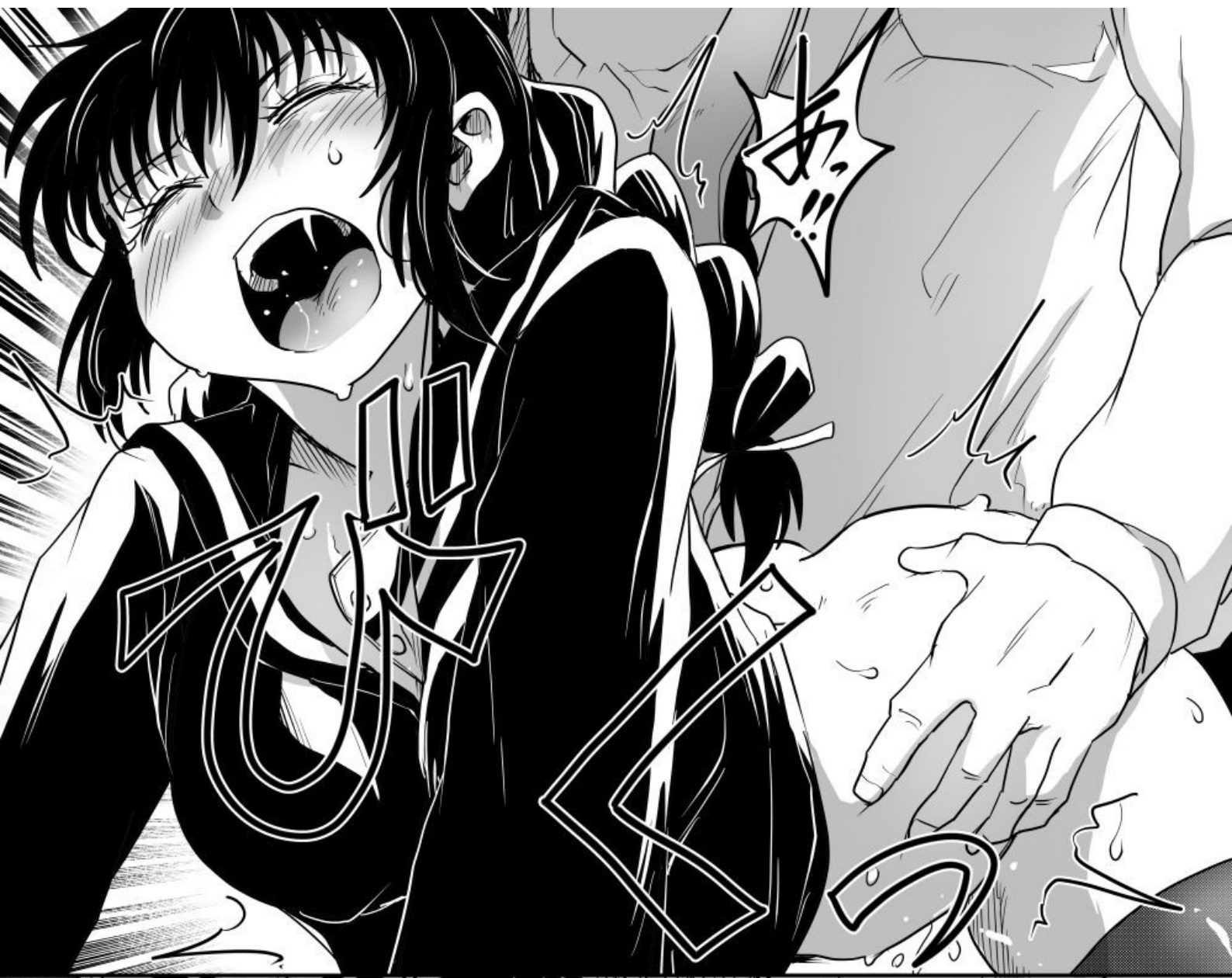
すると
顔を上げて
イキやすくなる



指で
別の場所に
刺激を
加えてやる



はあ



段々彼女の体の
扱い方が乱暴に
なってしまう



汗と愛液と
精液の匂いで
頭がボーっとする



ストリーブの熱と
体の熱とが
混じりあう



唾液と少しの
精液が
少女の服に滴る

容赦なく
彼女の口内を
楽しむ



匂いが染みるのが
嫌なら、
服を脱ぐしかない





裸になったら
もうただの
男と女だ



彼女の体を
上下させて、
自分で動くよう
促す

ん!!

と!!
す



これで
手は自由だ

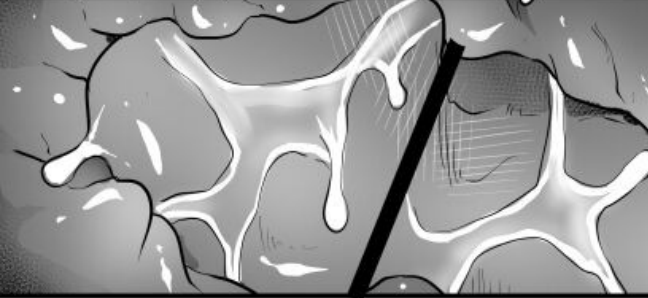


あ...

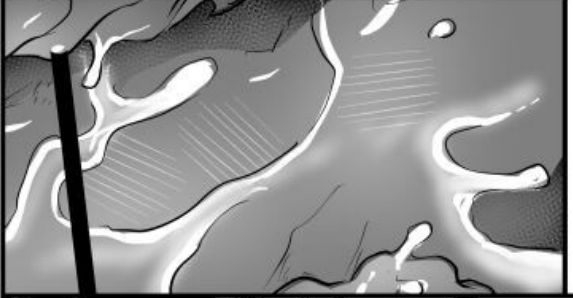
と!!
す



嫌々ながら
自分で腰を
動かす
ようになる

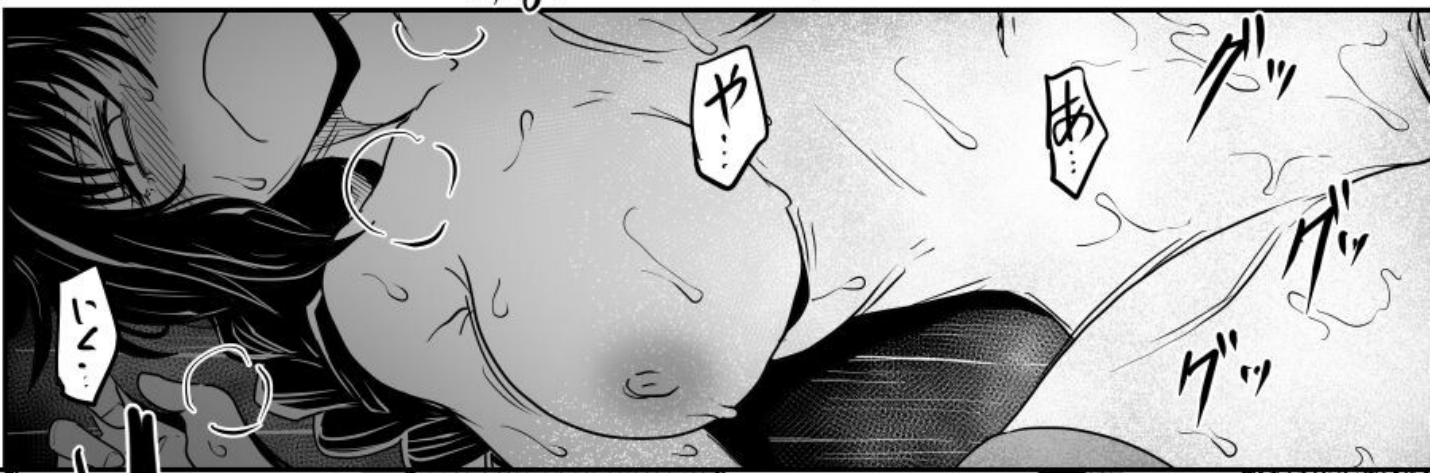
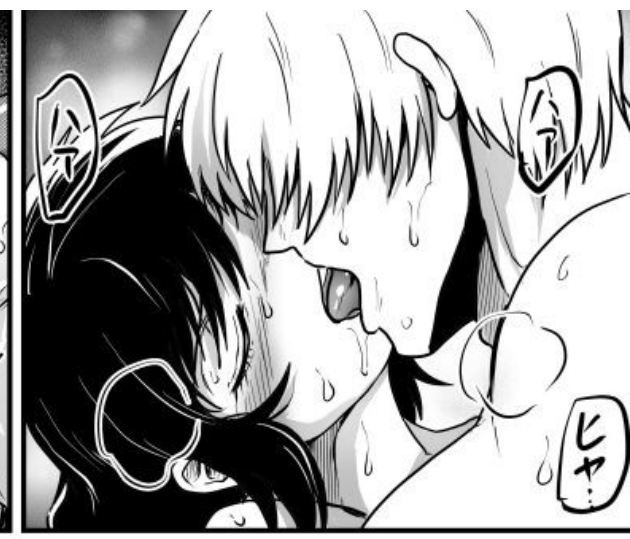


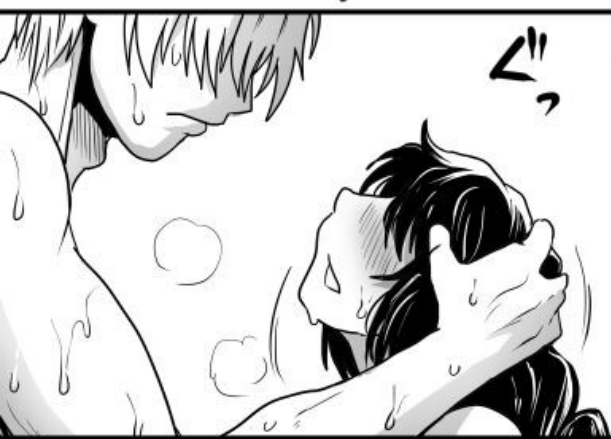
もうどちら
の体か
わからない



ただお互いの
体を貪りあう









後はただ、
列車を待つばかり

読了ありがとうございます
二〇二四一〇一—二九

